

ニュース

○待望の三国国道工事着手さる

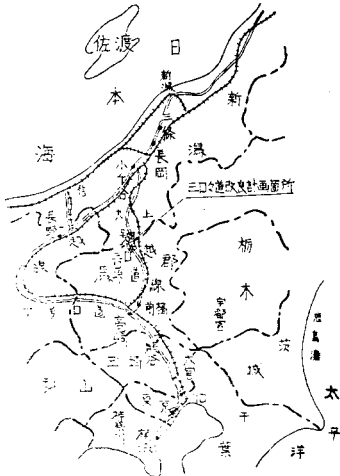
1. まえがき 三国国道改良工事は戦前昭和 15 年以降 6 ケ年計画事業で起工され、当時日満ルート最短距離として東京—新潟—羅新—新京を結ぶ目的で工事に着手したがその後世界大戦が勃発するに及び昭和 18 年に工事を休止するのやむなきに至つた。

しかるに終戦以来我が国はあらゆる資源を開発して自給自足の対策を樹てねばならないことになつた。このため国土の総合開発が叫ばれ、特に道路交通は産業開発上最も重要な生産的手段で国道はその根幹をなすものである。

関東信越地方において重要国道路線の内最も不備な地点は三国国道(国道 9 号線、群馬、新潟県界三国峠)である。即ちこの区間は当局管内で唯一の自動車交通不能の地である、この表日本、裏日本を結ぶ重要路線をいよいよ開通する事は当局の喜びばかりでなく産業開発上貢献されるものがあることを期待する。

2. 改良工事計画 三国国道改良工事は群馬県利根郡新治村吹路より新潟県南魚沼郡三国村浅貝に至る区間を改良するものであつて延長 17 022 m で本計画は

図一 三国国道改良工事計画略図



終戦後三国国道の工事の再開が呼ばれた結果昭和 23 年路線の再調査を開始し隧道の最短距離を選定し、前計画の三国隧道延長 1 400m を短縮し延長 960 m の新路線により立案したものである。本国道の改良により従来の高崎—長野—新潟路線(国道 10 号)の距離を 80 km 短縮することになり、国土の開発に資する処大なるものがある。この地方は日本アルプスの流れを頂く大森林地帯であつて木材、薪炭の生産高が多く、将来の森林業の発展を計る地方開発の意義もまた極めて大きいと言われなければならない。

3. 三国国道改良工事計画の概要

(1) 路線名: 国道 9 号線 (三国峠)

(2) 工事の起終点

起点: 群馬県利根郡新治村吹路

終点: 新潟県南魚沼郡三国村浅貝

(3) 工事費: 7 億 7 千 5 百万円

(4) 工事延長

(イ) 延長: 17 022 m

内訳 { 道路: 15 394.2 m,
橋梁: 327.8 m, 26 ケ所
隧道: 1 300.0 m, 6 "

(ロ) 巾員

有効巾員: 6 m (屈曲半径に応じ適當の拡巾をする)

最急縦断勾配: 10%

最小屈曲半径: 12 m (へヤビン曲線)

(5) 構造物

(イ) コンクリート擁壁 高さ 2~15 m
延長約 10 000 m

(ロ) 溝橋 延長約 800 m

(ハ) 橋梁 鉄筋コンクリートゲルバー桁橋 (橋長 36 m) 1 ケ所
拱橋 (全橋長 111.5 m) 8 "

その他鉄筋コンクリート T 型桁橋, 床版橋

(ニ) 隧道 三国隧道 延長 973 m

その他 5 ケ所 延長 330 m

(6) 計画年度

昭和 27 年度より 5 ケ年継続事業

故に工事完成年度は昭和 31 年度竣功予定

本年度は 65 000 千円で 2 000 m を施工し、群馬県側吹路地先、新潟県浅貝地内の両側で工事を進める事になつた。

4. 経済効果

三国国道改良の工事完成後の経済効果としてはすでに述べた通り戦前は日満ルート最短距離の軍用国道として計画されたが、終戦後は平和国家として発展して行く日本の表裏を結ぶ産業道路として国土資源開発に貢献される事を期待する。

ここに三国国道改良工事完成後の経済効果を簡単に二三挙げると次の通りである。

(1) 三国国道周辺の林産物に対する経済効果

林産物調査の結果三国国道改良完成後年間 25 792 石を新しく伐採出来る。

(2) 鉄道(上越線)輸送が三国国道(自動車輸道)への転換量

上越線による鉄道輸送が三国国道完成後自動車輸送に転換される量は調査の結果 57 000 ton である。

(3) 速急輸送を要する貨物の自動車輸送

三国国道開通により新潟—東京間を約 14.5 時間で輸送（現在上越線では 2, 3 日間を要す）出来るから速急を要する貨物の自動車輸送が可能となる。例えば新潟より東京に輸送している魚類は現在上越線で 6000 ton あるが、調査の結果（自動車）輸送量は下

記の如く推定される。

鉄道よりの転換量： 約 2000 ton

新たに増加する量： " 2500 "

故に三国国道を通過する魚類は約 4500 t となる。

（関東地建計画検査課長 神谷 洋）

○藤原堰堤工事着手さる

最近全国的に総合開発事業の一環として特にダム建設事業が実施されているが、利根川流域においても昭和 22 年 9 月のカスリーン台風によつて未曾有の大災害を齎してから、洪水防禦の再検討が行われ、現在利根川改修改訂計画として新たに計画高水流量の配分が決定している。この計画によれば利根川上流の八斗島地先（烏川合流点）で 17000 m³/sec の計画高水流量でありその内 3000 m³/sec を上流地域において洪水調節するよう要請されている。この洪水調節と近年盛んに提案されている総合開発事業とを結びつけて利根川流域に貯水池を建設しているものに鬼怒川上流部に五十里ダムがある。このダムは昭和 25 年度より実施されているが利根川上流部には貯水池系の一環としてまず藤原ダムが昭和 27 年度より着工される運びとなつた。

この藤原ダムの計画概要を示せば次の通りである。

1. ダム地点：群馬県利根郡水上町大字藤原字夜後
2. 流域面積：402.7 km²
3. 堰堤高：93.0 m（満水面より河床迄）
4. 堤頂長：210.0 m
5. 堤体積：465 000 m³（コンクリート重力堰堤）
6. 湛水面積：1.79 km²
7. 満水面標高：655.0 m
8. 総貯水量：46 500 000 m³
9. 調節水深：21.0 m

10. 調節容量：28 300 000 m³

11. 地質：緑質硬質凝灰岩

12. 事業費：約 40 億円（堰堤費のみ）

以上のダム建設によつて考えられる効果を示せば次の如くなる。

1. 沼水 計画高水流量 1 800 m³/sec
洪水調節流量 1 000 m³/sec
年平均災害防除額 約 3.5 億円
2. 発電 発電力 最大 29 000 kW
常時 13 000 kW
年間発生電力量 134 000 000 K.W.H.
年平均収入金額 3.6 億円
（下流出力増加分を含む）
3. 農業 補給面積 5 000 町歩
増産石数 10 000 石
年平均増収金額 6.5 千万円

4. 水道、工業用水については現在具体的な計画を立案していない。

この藤原ダムは昭和 27 年度より着手された事は既に記した通りであるが、本年度は公共事業費 2.5 億円を以て群馬県利根郡沼田町に利根上流堰堤工事事務所を設置し施工計画を検討しつつある。事業内容は初年度であるので主として仮設備関係の準備工事に終ることになるが発電事業とも併行して資金関係が円滑に進めば大体 5 ヶ年で工事は完了するものと思われる。これらのダム建設は利根川総合開発事業計画の進展とともに増加するものである。

（関東地建計画検査課）